

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

京都産業大学全学共通カリキュラム委員会

(責任者名) 黒坂 光

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|------------------------------|--|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | <p>全学部生に受講機会を提供するため、全学共通の「共通教育科目」として「データ・AIと社会」を開講している。令和5年度は春学期、秋学期ともに開講し、文系・理系によらず、すべての学部から2,328名(春学期:1,169名、秋学期:1,159名)の履修があり、前年度より約600名増加した。開講した令和3年度秋学期以降、これまでに4,727名の学生が履修しており、順調に履修者数が増加している。令和5年度の修得状況(合格率)は、84%(春学期:86%、秋学期:82%)となった。</p> |
| 学修成果 | <p>本科目は、データの数理的な扱いの基礎の修得や、データの収集法、AIの基本的な仕組み、社会におけるデータ・AI活用例、法律的・倫理的な問題点、人間社会・職業への影響、その予想される将来など、学生が幅広く関心をもって学習できる内容としている。</p> <p>各回の授業にて実施している小テスト(6点満点)の平均値は、4.55(春学期:4.6、秋学期:4.5)であり、どの回も十分に理解が進んでいると評価できる。</p> <p>また、本科目は遠隔授業(オンデマンド授業)で開講しているが、LMSの質問フォーラムを活用し、講義内容に関する質問等を、履修生同士または履修生と教員間で双方向のやりとりができるような体制を整えている。令和5年度に寄せられた質問数(カッコ内は、学生からの回答数)は、441(120)(春学期:273(56)、秋学期:168(64))あり、自主的・積極的な学習が出来ていると評価できる。</p> |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | <p>本学では、各学期末に学生による自分の成長の実感に関する自己評価を行い、FDやカリキュラム改善に活用することを目的とした調査を、全学的に実施している。</p> <p>本調査における「授業の到達目標」に対する学生自身の達成度を問う設問では、「達成できた」、「概ね達成できた」と回答した学生が、春学期は94%、秋学期は94%おり、本科目の到達目標を達成できていると言える。</p> <p>また、自由記述による回答の中には、「AIについて、これまで言葉程度しか知らなかったが、授業でAIや人工知能について学ぶことができ、自分の成長につながった。」という声もあった。</p> |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | <p>学習成果実感調査等により、履修生から収集した感想や意見を、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を紹介するホームページや大学案内等に掲載し、履修を促している。今後、学生からの声を分析・検証し、さらに新生や周りの学生への推奨度が高まるよう、改善していく。</p> |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | <p>本科目はオンデマンド型としており、各学期の定員を1,000名としている。</p> <p>学生の学修意欲の維持・向上のため、定員を超えた場合も、授業の質を確保しながら履修希望者を極力受け入れる体制をとっている。令和5年度は、すべての学部から2,328名(春学期:1,169名、秋学期:1,159名)の学生が履修した。令和5年度より、リテラシーレベルの「データ・AIと社会」と、応用基礎レベルの「データ・AI活用基礎」、「データ・AI活用実践(初級)」または「データ・AI活用実践(上級)」の計3科目を修得した学生には、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修証明として、オープンバッジ(デジタル証明書)を交付している。このような取組を通じて、全学的な履修者数、履修率のさらなる向上に努めていく。</p> |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|--|
| 学外からの視点 | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | <p>当該プログラムを修了した学生の進路や活躍状況、企業等の評価については、今後、進路・就職支援センター等の他部署とも連携し、企業等の評価を把握できる体制を構築する。</p> <p>また、本学では、継続的に「卒業生アンケート」を実施し、卒業生の状況を把握している。今後この「卒業生アンケート」の中に当該プログラムに関するアンケート項目を含めることにより、修了者の状況を把握できる体制を構築する。</p> |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | <p>本プログラムを履修している学生が、キャリア教育センターが開講するインターンシップ科目などを履修している場合、インターンシップを行った段階で、インターンシップ先企業から当該プログラムに対する意見を得られる体制を整えていく。</p> |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | <p>リテラシーレベルのモデルカリキュラム（導入・基礎・心得）に準じた内容としながらも、全学部の学生が関心をもって学習できるように、7学部16名の教員により、「AIと視覚・自然言語」、「AIの軍事利用」、「クチコミ分析」等、数理・データサイエンス・AIに直結するテーマだけでなく、それにまつわる社会的側面についても幅広く触れる内容としている。</p> <p>学習成果実感調査において、本科目の講義で学びの面白さを感じたかどうかを問う設問で、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した学生は、77%（春学期：77%、秋学期：78%）おり、概ね達成できていると言える。</p> |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>本学で浸透しているLMSを活用するオンデマンド型科目としている。これにより、学生は、LMSに保存された講義動画と資料・課題を基に、各自のペースで繰り返し学習することが可能となっている。また、授業の各回ごとに小テストを実施することで、理解を確認・定着させることができるよう工夫している。</p> <p>また、社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて、授業内容を随時見直し、反映している。その一例として、第9回の「AIと視覚、自然言語」に関する授業では、ChatGPTを取り上げ、事例を交えながら、できることとできないこと、そのリスクを説明している。</p> <p>学習成果実感調査の集計結果や学生から寄せられた意見等は、各年度末に開催する「担当者会議」にて共有し、教育内容を総括し、文系・理系問わず、より分かりやすい授業となるよう、次年度に向けた改善を行っている。</p> |